

令和5年度 メディア芸術連携基盤等整備推進事業  
分野別強化事業

マンガ原画アーカイブセンターの実装と  
所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究  
実施報告書

一般財団法人横手市増田まんが美術財団

令和6年2月

## 目次

第1章 事業概要 .....	3
1.1 事業の目的 .....	3
1.2 今年度事業の目的 .....	4
1.3 実施体制 .....	5
1.4 実施内容 .....	6
1.5 実施スケジュール .....	8
1.6 会議スケジュール .....	9
第2章 成果・課題・評価 .....	10
2.1 成果 .....	10
2.1.1 相談窓口の活動 .....	10
2.1.2 所蔵館ネットワークの構築 .....	10
2.1.3 専門人材の育成 .....	10
2.1.4 収益事業及び支援体制構築の調査 .....	11
2.1.5 原画／刊本事業の合同会議開催 .....	11
2.2 課題 .....	12
2.3 評価 .....	13
第3章 実施内容 .....	14
3.1 実施内容 .....	14
3.1.1 相談窓口の活動 .....	14
3.1.2 所蔵館ネットワークの構築 .....	17
3.1.3 専門人材の育成 .....	22
3.1.4 収益事業及び支援体制構築の調査 .....	23
3.1.5 原画／刊本事業の合同会議開催 .....	26
3.2 実施会議内容 .....	29

## 目次

3.2.1	運営協議会 .....	29
3.2.2	各部門実施会議内容 .....	30

### 第1章 事業概要

#### 1.1 事業の目的

マンガ分野では、「研究機関等におけるメディア芸術作品のアーカイブ化」を推進・支援するために、所蔵情報等の整備を進めるとともに、産・学・館（官）の連携・協力により、分野を横断して課題解決に取り組む。

過年度までの具体的内容としては、マンガの原画と刊本（雑誌・単行本）に対象を分け、前者に関しては、横手市増田まんが美術館を「マンガ原画アーカイブセンター」の担い手として実装するとともに、後者に関しては、熊本大学を「マンガ刊本アーカイブセンター」の将来的な担い手として想定し、統合的かつ体系的な「マンガのアーカイブ」の連携基盤整備を推進してきた。

このように、これまでも原画／刊本両事業は、“車の両輪”として連携し作業を行ってきたが、今年度は、より緊密な共通課題に沿った共同会議を実施し、2023年内の「マンガ刊本アーカイブセンター」の設置を前提に、以下のような事業計画を設定した。

- ① 日本のポップカルチャーの象徴であり、メディア芸術の核となるマンガの資料群（原画、刊本）の保存に関して、引き続き、標準的・体系的な方法の確立に向けた調査研究を行う。そのために、全国の所蔵館と情報共有できる体制を整えるために、原画・刊本のアーカイブに関する相談窓口を設けるとともに、所蔵館連携ネットワークの構築と強化を進める。
- ② 本事業は、将来的なメディア芸術の拠点形成に向けた構想の実現を視野に入れて、マンガに限らず、メディア芸術各分野の先行モデルあるいはケーススタディとなることを想定し、中期的観点から計画を進めている。事業を通じて得られる課題の発見や解決のための情報・知見、そして人材については、ネットワーク間で広く共有するとともに、事業実施プロセス自体を可視化・アーカイブするための調査研究を進める。
- ③ メディア芸術連携基盤等整備推進事業の趣旨に基づき、メディア芸術データベースにおいて作品情報や原画・刊本の存在を公開し、広く国内外に向け、「マンガのアーカイブ」を活用した新たな価値創造に関して問題提起するための調査研究を行う。これに際して、作家本人やその関係者、出版社など、とりわけ「産」並びに地方自治体との連携の在り方を綿密に検討する。

## 第1章 事業概要

### 1.2 今年度事業の目的

- ① マンガ原画アーカイブセンター（以下、MGAC）の実装と所蔵館連携に向けた調査研究事業計画とロードマップの策定に向けた基礎調査として、連携基盤整備推進事業における有識者検討委員のアドバイスを受けながら、以下テーマを実施する。
- ・相談窓口の活動：窓口業務（電話、HP等）、出版社及び日本漫画家協会などの関係機関を中心とした外部への宣伝活動、相談カルテと処方箋の作成・発行、緊急保護が必要な原画資料の一時保護及びその移管作業
  - ・所蔵館ネットワークの構築：ネットワーク強化に向けた新たな参画館の確保、連絡会議の調整と開催、連携館による「原画プール（マンガ原画の一時預かり）」の実践研究及び受入れ体制の強化、収蔵相談等調査依頼の受入れと調査員の派遣
  - ・専門人材の育成：保存者別「原画アーカイブマニュアル」の構築研究とマニュアルの製作・公開、保存・修復等専門機関との合同研究
  - ・収益事業及び支援体制構築の調査：所蔵館の収蔵原画を活用した展示・出版等の立案、ゲンガノミカタ展の巡回支援、ゲンガノミカタ展を活用した冊子の製作・収益化への取組、将来的な自走化に向けた支援金募集・受入れ体制の検討
  - ・「集英社マンガアートヘリテージ（以下、SMAH）」との連携による原画保存に関する共同研究の実践並びに収益化に向けた協議
- ② 原画／刊本事業の合同会議開催（実施期間：年6回開催）
- ・マンガの原画と刊本は、資料の価値付けや活用方法において表裏一体の関係にある。両者のアーカイブについてそれぞれ考えてきた原画／刊本両事業の将来的な合流を目指し、両者の共通課題を抽出した以下の共同会議を実施する。
  - ・原画、刊本の保存・修復に関する合同学習会の開催：原画、刊本の所有者及び管理者等を対象とした学習会を、外部講師を招いて開催する。

## 第1章 事業概要

### 1.3 実施体制

本事業は、「MGAC」を中心として全国の所蔵館・マンガ関連施設に関わる学芸員、研究者などの参画により実施された。

今年度の事業内容の詳細に応じて、「MGAC 運営協議会」、「マンガ原画アーカイブネットワーク部会」、「マンガ原画アーカイブマニュアル検討部会」、「収益・支援体制構築部会」の4部会を設置し、メンバーがそれぞれいずれかの部会に属して研究や事業の推進を図った。

表 1-1 参加メンバー一覧

役職	名前	所属
コーディネータ	大石 卓	横手市増田まんが美術館 館長
アドバイザー	吉村 和真	京都精華大学 専務理事
アドバイザー支援	イトウ ユウ	京都精華大学マンガ学部 特任准教授
メンバー	表 智之	北九州市漫画ミュージアム 学芸担当係長
	ヤマダ トモコ	明治大学米沢嘉博記念図書館
	池川 佳宏	熊本大学大学院 人文社会科学部 (文学系) 准教授
	木村 仁	株式会社街づくりまんぼう (石ノ森萬画館指定管理会社)
	隅 淳子	鳥取県北栄町 観光交流課 観光戦略室 副主幹
	黒木 博行	熊本県湯前町教育委員会 教育課 社会教育係 主幹
	倉持 佳代子	京都国際マンガミュージアム

連携機関：青山剛昌ふるさと館、石ノ森萬画館、北九州市漫画ミュージアム、京都国際マンガミュージアム、明治大学米沢嘉博記念図書館、湯前町立湯前まんが美術館（那須良輔記念館）、横手市増田まんが美術館 [50音順]

## 第1章 事業概要

### 1.4 実施内容

#### 1) 相談窓口の活動

マンガ原画の保存については、これまで国内に専門の窓口などは設置されておらず、原画に関わる漫画家や遺族、版權者や編集者などが、それぞれの人脈の中で、国内のマンガ関連施設を中心に保存の相談をする流れとなっていた。こうした中、いち早く体系的な原画收藏とアーカイブに取り組んできた横手市増田まんが美術館の実績が評価され、その知見を最大限発揮する形で、同館を窓口として令和2年度に国内初の原画保存相談窓口を開設する運びとなった。

今年度もこれまでの3か年の窓口開設実績を基に、専用の電話回線及びウェブサイトを準備した上で、電話・FAX・Eメールなどによる相談を受け付けるとともに、これまでに構築されてきた所蔵館ネットワークの知見を活かし関係のあるマンガ編集者等を介して、漫画家へのMGACの広報を依頼するなど、窓口設置の認知拡大を図った。また、美術館に隣接する増田の町並みにある「漆蔵資料館」をMGACの事務局兼活動拠点とし、広報の強化とプール原画（一時預かりした原画）の保存能力強化に取り組んだ。

#### 2) 所蔵館ネットワークの構築

これまでの調査研究で蓄積した原画保存のノウハウを共有し、原画保存に取り組む強固な連携体制の構築を目的に設置した「マンガ原画アーカイブネットワーク協議会」を継続し、協議に当たった。メンバーは、産官学それぞれの運営形態を取る施設や研究者等によって構成された。会議は8月と10月の2回開催し、連携機関間の情報交換を行ったほか、プール原画の保管場所拡大に向けた取組として、高知県及び熊本県山都町に対する実地踏査及び集積場所確保の協議に当たった。なお、令和3年度から実施している「原画プール」については、9作家のマンガ原画約165,500枚をプールした。

#### 3) 専門人材の育成

マンガ原画アーカイブの啓発普及と、それに関わる人材の育成を目的として、連携館が持つ知見を集約した「マンガ原画アーカイブマニュアル」を改善してきたが、昨年度に引き続き、保存者別マニュアルの構築研究を行った。マンガ原画アーカイブマニュアル部会を構成し、部会員による検討会議を6月と令和6年2月に開催し、その仕様調整等に当たった。

#### 4) 収益事業及び支援体制構築の調査

これまでの取組において、横手市増田まんが美術館がリニューアルオープン企画として令和元年5月に開催した「ゲンガノミカタ展」を基にしたの巡回パッケージ化を進めてきた。今年度も昨年度に引き続き「ゲンガノミカタ展」の原画鑑賞における解説テキストをほかの作家作品に置き換えて展示構築するモデルケースとして、令和5年6月17日から10月3日に京都国際マンガミュージアムにおいて開催された「村上もとか展」及び令和5年9月16日から11月26日に北九州市漫画ミュージアムにおいて開催された「文月今日子展」に対し解説テキストを提供した。このほか、プール原画の活用に向けた協議を重ねた。

## 第1章 事業概要

### 5) 「SMAH」との連携による原画保存に関する共同研究の実践

SMAH（集英社マンガアートヘリテージ）が展開する原画整理とアートブロックチェーンを活用した高精細プリント作品の製作販売事業とより現実的な MGAC 事業との連携に向けた意見交換を行った。

### 6) 原画／刊本事業の合同会議開催

4月のキックオフミーティングを皮切りに、全6回の合同会議を開催。原画分野と刊本分野、それぞれのアーカイブに対する考え方及び課題等を整理し、早期の合流に向けた調整を図った。

また、かねてから原画・刊本両事業の関係者から要望が強かった「マンガ原画や刊本に関する紙資料の保存・修復方法」について、専門家からの講義を受ける研修会を2月にオンラインで実施した。



## 第1章 事業概要

### 1.5 実施スケジュール

実施期間：令和5年4月11日～令和6年2月29日

スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月
全体事業					自治体連携会議① 8/29 (WEB)	
原画・刊本合同	マンガアーカイブ 協議会① 4/21 (WEB)		マンガアーカイブ 協議会② 6/3 (横手)		マンガアーカイブ 協議会③ 8/8 (WEB)	
マンガ原画 アーカイブセンター (MGAC)	業務全般 アーカイブ実務研修 など					→
運営協議会	運営協議会① 4/21 (WEB)					
ネットワーク会議部会					ネットワーク会議① 8/22 (WEB)	
マニュアル検討部会			アーカイブマニュアル 検討会議① 6/3 (横手)			
収益・支援体制 構築部会			収益・支援体制 構築会議① 6/4 (横手)			

図1-1 部会ごとの会議日程一覧（前期）

スケジュール	10月	11月	12月	1月	2月
全体事業	中間報告会 10/16 (WEB)			報告書とりまとめ 自治体連携会議② 1/23 (WEB)	最終報告会 2/21 (WEB)
原画・刊本合同	マンガアーカイブ 協議会④ 10/21 (東京)		マンガアーカイブ 協議会⑤ 12/12 (熊本)		マンガアーカイブ協議会⑥ 2/1 (WEB) 原画刊本合同研修会
マンガ原画 アーカイブセンター (MGAC)	業務全般 アーカイブ実務研修 など				→
運営協議会					運営協議会② 2/1 (WEB)
ネットワーク会議部会	ネットワーク会議② 10/20 (東京)				
マニュアル検討部会					アーカイブマニュアル 検討会議② 2/1 (WEB)
収益・支援体制 構築部会					収益・支援体制構築会 議② 2/1 (WEB)

図1-2 部会ごとの会議日程一覧（後期）

### 1.6 会議スケジュール

#### 1) MGAC 運営協議会

第1回 令和5年4月21日（金）11：00～12：00

第2回 令和6年2月1日（木）16：30～17：45

#### 2) マンガ原画アーカイブネットワーク会議

第1回 令和5年8月22日（火）13：00～15：00

第2回 令和5年10月20日（金）14：00～16：30

#### 3) マンガ原画アーカイブマニュアル検討会議

第1回 令和5年6月3日（土）14：00～15：30

第2回 令和6年2月1日（木）15：45～16：30

#### 4) 収益・支援体制構築会議

第1回 令和5年6月4日（日）10：00～12：00

第2回 令和6年2月1日（木）15：00～15：45

#### 5) マンガアーカイブ協議会

第1回 令和5年4月21日（金）10：00～11：00

第2回 令和5年6月3日（土）10：00～12：00

第3回 令和5年8月8日（火）14：00～16：00

第4回 令和5年10月21日（土）18：30～21：00

第5回 令和5年12月2日（土）15：00～17：30

第6回 令和6年2月1日（木）17：15～18：00

## 第2章 成果・課題・評価

### 2.1 成果

#### 2.1.1 相談窓口の活動

相談窓口を開設して4年目となる今年度は、美術館に隣接する国の重要伝統的建造物群保存地区「増田の町並み」にある「漆蔵資料館」を事務局兼活動拠点として、プール原画の保存能力及び活動周知強化に取り組めた。具体的には、資料館内にある内蔵を活用し、マンガアーカイブセンター（以下、MGAC）の機能紹介やこれまでの活動実績をパネルで紹介するとともに、これまでの事業で製作した原画保存に関する啓発動画を流すなど、マンガ原画のアーカイブ推進についての現状を広く周知できた。

相談対応については、昨年度から継続している26件の相談案件に加えて、新たに13件の相談を受け、計39件の相談に対応した。内訳は、直接の聞き取り調査が10件、電話やメール等を介しての調査が16件、継続及び今後の調査依頼相談が13件となった。この中でも年々その対応要望が高まる原画プール事業に関しては、9件の原画プールを実施。緊急保存の必要な原画の救済や著作権継承者が抱える保存問題の解決に対処できた。

#### 2.1.2 所蔵館ネットワークの構築

昨年度に引き続き、連携館による「マンガ原画ネットワーク会議」を2回開催。このうち10月に開催した第2回会議は、刊本事業のシンポジウムに合わせて東京で対面開催し、細やかな情報交換を実現できた。また、「原画プール」については、計165,500枚の原画をMGACの事務局兼活動拠点である「漆蔵資料館」で保管できた。このほか、プール原画の保管場所拡大に向けた取組において、高知県が運営する「高知まんがBASE」が正式にプール原画の保管施設として参画することとなったのは大きな成果となった。なお、神奈川県在住漫画家の原画プール対応に、明治大学米沢嘉博記念図書館の関係者が引渡しの調整を図るなど、ネットワークを生かした連携活動を展開した。

#### 2.1.3 専門人材の育成

これまでの事業で整備してきた「マンガ原画アーカイブマニュアル」の更新及び公開を目指し調査研究に当たった。昨年度までに実施した取材を基に、保存者別に保管に対する実務的な取組に幅のある実態を再認識した結果、指針としてのイメージが強い「マニュアル」というタイトルから、専門施設やそれぞれの団体、企業、個人等が実践しているアーカイブの実践内容を紹介する「手引き」としての位置づけを意識したタイトルに変更し、「マンガ原画保存の手引き」として作成した。今後MGACのHPにて公開予定。

## 第2章 成果・課題・評価

### 2.1.4 収益事業及び支援体制構築の調査

これまでの取組において、横手市増田まんが美術館がリニューアルオープン企画として令和元年5月に開催した「ゲンガノミカタ展」基にしたの巡回パッケージ化を進めてきた。今年度は昨年度に引き続き「ゲンガノミカタ展」の原画鑑賞における解説テキストをほかの作家作品に置き換えて展示構築するモデルケースとして、京都国際マンガミュージアムにおいて開催された「村上もとか展」及び北九州市漫画ミュージアムにおいて開催された「文月今日子展」へテキストを提供。様々なマンガ原画の展示に「ゲンガノミカタ展」を活用できるよう応用力向上の取組を展開した。また、事業外での取組となるが、過去事業で監修協力を行った「ゲンガノミカタ展」の解説内容を紹介する小冊子「ゲンガノミカタ マンガ原画を100倍楽しむ法」が上記の2館及び、7月に開催した日本マンガ学会第22回大会の会場にて頒布がなされたことで、収益強化と原画保存の理解者を増やす取組も実践できた。

### 2.1.5 原画／刊本事業の合同会議開催

マンガ分野における原画事業と刊本事業の早期合流に向け、年6回の合同会議を開催。特に今年度は刊本アーカイブセンターの開設に向けた協議を中心として、10月に東京で開催したシンポジウムには両事業が連携協力する形で臨むことができた。こうした流れの中で、12月には無事刊本アーカイブセンターが開設されたことを受け、両センターの合流に向けた本格的な調整に入る基盤及び体制の整備が最大の成果となった

### 2.2 課題

#### 1) 相談窓口の活動

これまでのMGACの活動の積み上げとして、確実にその認知が拡大している状況を実感する場面も多くなっているが、飛躍的に相談案件が増大している訳ではない現状、まだまだ拾い切れていないマンガ原画の窮状が存在することは想像に難くない。今後も長期的な窓口の設置と継続的な広報活動の重要性を痛感している。

#### 2) 所蔵館ネットワークの構築

マンガ原画の資料的かつ文化的な価値が高まるにつれ、簡単には原画保管に関われないといった風潮も増しており、原画保管を担う連携館の確保は容易ではない現状、MGAC開設時に想定していた広がりを実現できずにいる状況は、大きな課題として残っている。しかしながら、例年課題として挙げていたプール原画の整理作業については、事務局調査事業としての支援を頂き約70,000点の整理を遂行できた。こうした成果は、プール原画の保存先を斡旋〔あっせん〕する活動にとって非常に有益であり、この整理作業を最大限に活〔い〕かすべく、保管を担う連携館の確保に継続して努めていく必要がある。

#### 3) 専門人材の育成

これまでの取り組みのいわば集大成として「保存者別原画アーカイブマニュアル」の公開を目標に協議を重ねてきたが、軌道修正を経て「マンガ原画保存の手引き」として公開できたことは、一つの成果として評価したいが、数々のヒアリングや調査の中で、より保存者別に繊細な仕訳や設定が必要なことは確認できている。今回の公開が終着点ではなく、今後も様々な立場や環境に対応した原画保存の手引きとして充実させていくことが求められている。

#### 4) 収益事業及び支援体制構築の調査

京都国際マンガミュージアム及び北九州市漫画ミュージアムにおいて開催されたマンガ原画の展示に「ゲンガノミカタ展」のテキストを活用できたが、今年度も本展パッケージとしての他施設での開催は実現できなかった。連携館を中心とし、原画保管作品及び作家が年々増大している中で、それらを反映した「新・ゲンガノミカタ展」の構築の必要性を痛感している。また、プール原画数が年々増加する中で、こうしたプール原画の活用を今後の収益活動に活かすのも課題である。

#### 5) 原画／刊本事業の合同会議開催

合同会議の下、両事業の連携協議を続けてきた中で、刊本アーカイブセンターの開設は大きな成果ではあったが、今後は両分野がそれぞれ抱えている課題をより細密に整理し、具体的な合流のゴールラインを設定する必要がある。円滑な合流に向けた調整に引き続き取り組んでいく。

### 2.3 評価

本事業は今年度も、既設の「マンガ原画アーカイブセンター (MGAC)」を活動拠点に、具体的な業務項目、実施体制及びスケジュールに基づき、全体的に計画どおり遂行されたと評価できる。それを前提に、以下、個別の活動項目について言及したい。

「相談窓口の活動」と「所蔵館ネットワークの構築」では、新たな相談件数が増える中、原画プールでの作業も丹念に積み上げられている。ただし、漫画家を始めとする関係者のニーズがますます高まるのは確実であり、持続的な運営体制や受入先の拡充が喫緊の課題となっている。その点、今年度は新たな協力先の開拓にも積極的に取り組んでおり、そうした動向や成果の可視化により、全国的な波及が期待される。

また、「専門人材の育成」では、「マンガ原画保存の手引き」が今年度中に完成の運びとなった点を評価したい。今後は連携機関等における共有を通じ、原画アーカイブの全国的な底上げを図ることになるが、その意味では「収益事業及び支援体制構築の調査」において、昨年度の成果であった「ゲンガノミカタ展」テキストを活用した展示の実績も、原画アーカイブの蓄積と活用の事例として相乗効果を持っている。特に後者のテキストを日本マンガ学会の大会で頒布できたことは、専門的関心の高い層への発信として効果的だったと言える。

一方、こうした活動や連携先の広がりや、今後の MGAC の自走化やネットワークの支援体制の拡充にとって、費用面でのハードルが上がることを意味する。したがって、「集英社マンガアートヘリテージ (SMAH)」との連携を始め、原画アーカイブの活用に関する共同研究などを踏まえた収益化事業の強化も重要となるが、これまで業界・出版社との連携を推進してきた本事業との関係から言えば、5月に一般社団法人「マンガアーカイブ機構」が本事業を契機に設立されたことは大きな動きであった。

さらに、マンガ刊本事業において12月に開設された「マンガ刊本センター (MPAC)」の活動も本格化していくため、マンガアーカイブに関する総合的かつ持続的な取組の支援体制の構築が、間違いなく来年度以降の重要な課題となる。今年度も計画的に実施されてきた「原画／刊本事業の合同会議開催」を更に緊密な形で継続させ、事業の内容と仕組みの両面において、新たなフェーズに向けた具体的な協議と実践が求められる。

## 第3章 実施内容

### 3.1 実施内容

#### 3.1.1 相談窓口の活動

##### 【体制】

マンガ原画アーカイブセンター（以下、MGAC）

- ・センター長 大石 卓（横手市増田まんが美術館 館長）
- ・センター長代理 柴田 敏範（一般財団法人横手市増田まんが美術財団）
- ・主任スタッフ 安田 一平（同上）
- ・スタッフ 後藤 和美（同上）



図3-1 MGAC 事務所（佐藤養助漆蔵資料館内）

## 第3章 実施内容

**MGAC**  
マンガ原画  
アーカイブセンター  
MANGA GENGA ARCHIVE CENTER

2020年度 メディア芸術連携基盤等整備事業  
文化庁

▶ ホーム ▶ 原画アーカイブ事業 ▶ MGAC運営協議会 ▶ 収益・支援体制構築部会 ▶ マニュアル検討部会 ▶ ネットワーク部会 ▶ マンガアーカイブ協議会 ▶ 報告会

Home / マンガアーカイブ協議会 / 【令和5年度】第2回マンガアーカイブ協議会の開催について

### 【令和5年度】第2回マンガアーカイブ協議会の開催について

投稿日：2023年6月7日

カテゴリ： マンガアーカイブ協議会

文化庁 令和5年度メディア芸術連携基盤等整備推進事業「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」との連携会議として、第2回マンガアーカイブ協議会をマンガ原画アーカイブセンター事務所（秋田県横手市）及びWEB会議にて開催いたしました。今後のマンガ原画・刊本の連携について、刊本事業でのアーカイブ施設設立準備に向けての協議を行いました。

#### ■ 内容

##### ① 両事業進捗状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」（大石卓）
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」（鈴木寛之）

##### ② 刊本アーカイブセンターの設置準備について

- ・刊本アーカイブセンターについて（設置意義、業務内容、組織体制ほか）
- ・設置に関する進捗状況の共有
- ・設置準備に関する課題共有・今後のスケジュールについて



図3-2 HPでの活動紹介



【相談依頼内容】

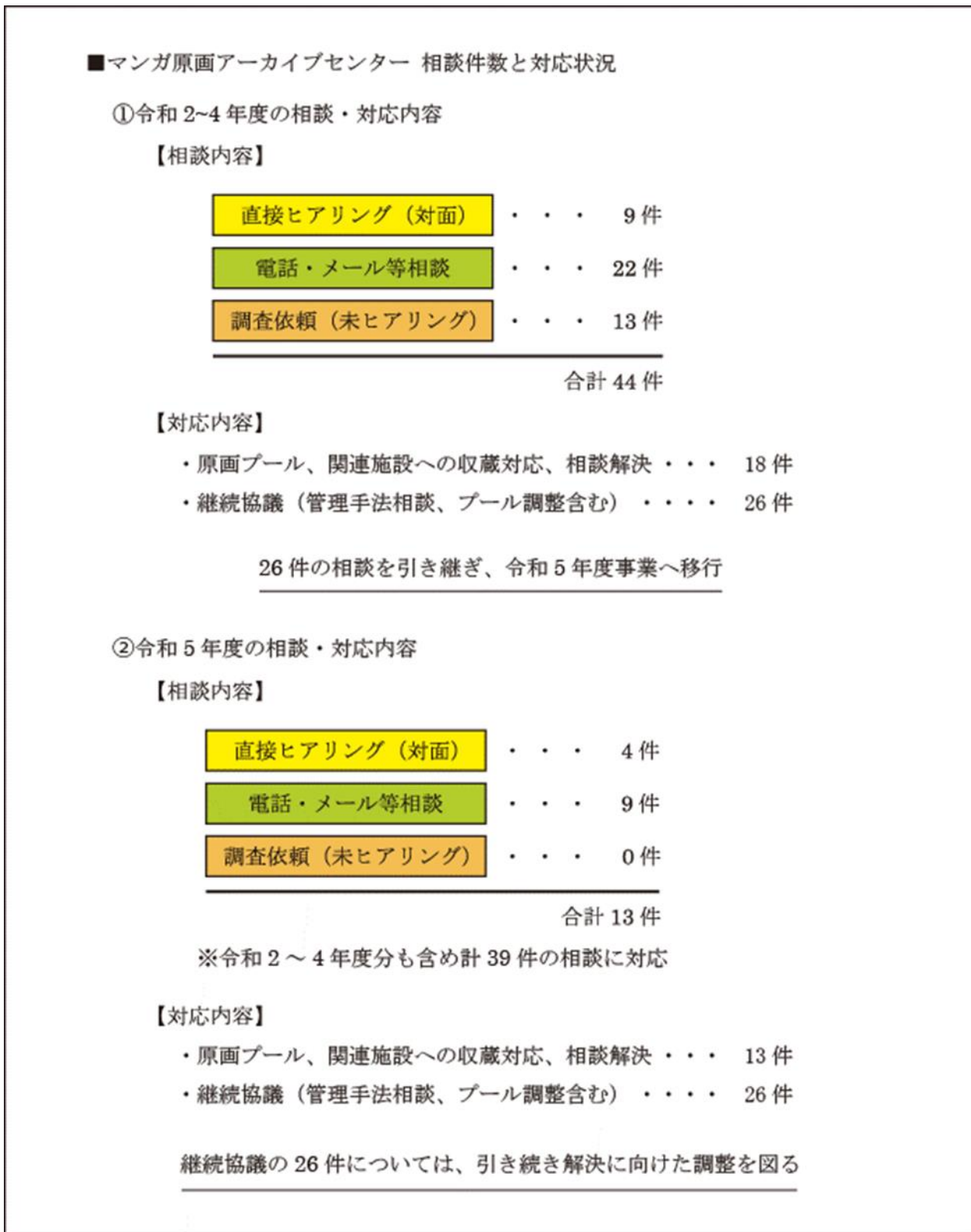


図3-3 今年度相談件数と対応状況

## 第3章 実施内容

### 3.1.2 所蔵館ネットワークの構築

#### 主なマンガ関連施設におけるマンガ原画収蔵・プールの状況

(M G A C 調査)

施設名	横手市増田まんが美術館	京都国際マンガミュージアム	北九州市漫画ミュージアム
施設外観			
収蔵・プール枚数	約45万枚	確認作業中	約14万枚
現在の収蔵状況 収蔵に対する 考え方	地元出身漫画家を中心に、関係性のある漫画家や編集者からの紹介など、市の公費を投じてアーカイブする作家を厳選しながら積極的な収蔵を展開してきた。その結果、令和5年度末で45万点を超える原画を収蔵している。	刊本（雑誌・単行本）のアーカイブを中心とした施設であり、さらに収蔵スペースの問題もあり、現在、大規模な原画収蔵の積極的な取り組みは行っていない。ただし数名の作家に関しては、実験的に、ほぼすべての原画を受け入れている。受け入れ済みの原画に関しては、他館の展覧会への貸し出しが2件実現した。また、別途個展の企画が提案されたりする等、活用が進んでいる。	北九州ゆかりの漫画家の業績の顕彰を目的に開設。ゆかり作家の内、本人や家族による管理が難しいケースを優先して原画を受け入れ、現在約14万枚を収蔵中。令和5年度は文月今日子の原画約8千枚を受け入れ、秋季にお披露目展示を行った。同作家は雑誌への再録掲載がコンスタントにあり、出版社に対する原画の出納を定期的に行っていることが特徴。今後も、北九州ゆかりの作家・作品を原則に受け入れを続ける。
今後の方針 懸念事項	館のキャパシティである70万点に対し、既に45万点を超える原画が収蔵されており、加えて、原画プールとして35万点を超える原画を保管していることからスペース確保の議論を進める必要がある状態。	受け入れた原画に関しては、データベースの構築や最終的な収蔵場所の確保が十全に実現できていないが、現在、「一般社団法人マンガアーカイブ機構（MAC）」の委託を受けたIMRCが、マンガ資料のアーカイブスペースの整備を進めている。今後は、同スペースを見据えつつ、アーカイブ事業全体の見直しを行う予定である。	新規受け入れを検討中の案件がある。収蔵庫のキャパシティが限界を迎え、再整頓による収納の効率化を図る。また、館内常設展示のルーティン確立と、館外への出納オペレーションの効率化も急務である。
施設名	明治大学米沢嘉博記念図書館	石ノ森萬画館	
施設外観			
収蔵・プール枚数	1400枚	99,000枚	
現在の収蔵状況 収蔵に対する 考え方	図書館ではあるが鈴木光明の寄贈原画1400枚や、高橋しん作画資料などを有す。2021年春、現代マンガ図書館との複合的運用を開始。方向性に変更はなし。1階が展示スペースであり、マンガの原画展を頻繁に行っていることから、原画の整理・保管作業等の協力を行っている（三原順など）。図書館としての蔵書数約14万冊、アニメ原画収蔵約50箱分。	2011年の東日本大震災により被災するまでは、石ノ森草太郎の原画約9万点を保管し、アーカイブ作業を行っていた。震災後、大半を返却したことから、保管スペースが空いており、原画プール事業に対応できた。令和5年度も追加での原画プールに協力している。	
今後の方針	収蔵スペースの関係もあり、現在マンガ原画の収蔵計画は無し。収蔵済み原画の整理を進める予定。	今後、関係性のある作家や作品の原画保管の予定もあるが、アーカイブセンター事業との連携に協力していく考え。	

図 3-4 連携館の状況

### 第3章 実施内容

#### 【ネットワーク拡大に向けた取組】

##### ■熊本県山都町へのMGAC事業協力依頼

日時：令和5年12月4日（月）9：00～11：00

場所：熊本県山都町役場、山の都サテライトオフィス白糸

内容：熊本県山都町役場を訪問し、原画プール事業等への協力依頼を行った。  
また、山都町が管理・運営する「山の都サテライトオフィス白糸」を訪問し、刊本事業との連携の様子を確認した。



・山都町が管理運営する「山の都サテライトオフィス白糸（旧：白糸第一小学校）」



・施設内の様子（旧小学校教室跡）

図3-5 熊本県山都町への視察の様子

### 第3章 実施内容

#### ■高知県「高知まんがBASE」へのMGAC事業協力依頼

日時：令和5年12月5日（火）9：30～10：30

場所：高知まんがBASE

内容：高知まんがBASEを訪問し、同施設を管理・運営する高知県に原画プール事業等への協力依頼を行った。また、今後の連携方針についての協議を行った。



・高知県との協議の様子（高知まんがBASE内）



・施設内視察の様子（高知まんがBASE内）  
※写真の棚を使った原画の保管を協議中

図3-6 高知まんがBASEへの視察の様子

### 第3章 実施内容

#### 【原画プールの状況】

##### ■R3年度プール・収蔵実績

NO.	作家名	代表作	相談者	相談区分	相談手法	保管希望先	プール 収蔵先	原画数(概算)
1	川本コオ	鯨魂	親族(ご息女)	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	15,000 枚
2	山田芳裕	へうげもの	編集者	保存	対面	指定なし	石ノ森萬画館	14,000 枚
3	花村えい子	霧のなかの少女	原画管理者 親族(ご息女)	保存	メール・電話 対面	横手市増田 まんが美術館	横手市増田 まんが美術館	30,000 枚
4	東條仁	CUFFS ～傷だらけの地図～	編集者	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	12,000 枚
5	なきぼくろ	バトルスタディーズ	編集者	保存	対面	指定なし	石ノ森萬画館	4,000 枚
6	山崎大紀	千代の富士物語	本人	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	10,000 枚
							合計	85,000 枚

##### ■R4年度プール・収蔵実績

NO.	作家名	代表作	相談者	相談区分	相談手法	保管希望先	プール 収蔵先	原画数(概算)
1	山崎大紀(追加分)	千代の富士物語	本人	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	18,000 枚
2	松浦まさふみ	機動戦士ガンダム ムーンクライシス	本人	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	1,000 枚
3	高井研一郎	総務部総務課山口六平太	親族	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	15,000 枚
4	霜月かいり	BRAVE10	本人	保存	メール・電話	指定なし	石ノ森萬画館	10,000 枚
5	玖保キリコ	いまどきのこども	編集者	保存	メール・電話	横手市増田 まんが美術館	横手市増田 まんが美術館	12,000 枚
6	オキモト・シュウ	神の雫	編集者	保存	メール・電話 対面	横手市増田 まんが美術館	横手市増田 まんが美術館	15,000 枚
7	ムロタニ・ツネ象	漫画日本史	親族・関係者	保存	メール・電話 対面	北九州市漫画 ミュージアム	北九州市漫画 ミュージアム	10,000 枚
8	秋里和国	THE B.B.B.	本人・編集者	保存	メール・電話	指定なし	横手市増田 まんが美術館	8,000 枚
9	山本夜羽音	マルクスガール	親族	保存	メール・電話	指定なし	横手市増田 まんが美術館	8,000 枚
10	原ちえこ	三つのプランコ物語	本人	保存	メール・電話	横手市増田 まんが美術館	横手市増田 まんが美術館	25,000 枚
11	土崎雅雪	いけいけ!! ねころメイド	本人	保存	メール・電話 対面	横手市増田 まんが美術館	横手市増田 まんが美術館	1,000 枚
12	谷岡ヤスジ	ヤスジのメッタメタガキ道講座	親族	保存	メール・電話	横手市増田 まんが美術館	横手市増田 まんが美術館	15,000 枚
13	楠本まき	KISSxxxx	本人	保存	メール・電話 WEB会議	横手市増田 まんが美術館	横手市増田 まんが美術館	3,000 枚
							合計	141,000 枚

表 3-5 令和3年度・令和4年度 原画プール対応状況の詳細

### 第3章 実施内容

#### ■R5年度プール・収蔵実績(令和6年1月31日現在)

NO.	作家名	代表作	相談者	相談区分	相談手法	保管希望先	プール 収蔵先	原画数(概算)
1	柴田昌弘	『赤い牙』シリーズ	編集者・本人	保存	メール・対面	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	30,000 枚
2	市川ジュン	陽の末裔	編集者・本人	保存	メール・対面	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	25,000 枚
3	榎その	昭和新版・水や空	親族	保存	メール	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	5,000 枚
4	今道英治	アオシマコミックス レッドホークシリーズ	親族	保存	メール	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	7,000 枚
5	よしながふみ	大奥	編集者・本人	保存	メール・対面	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	8,000 枚
6	横山まさみち	やる気まんまん	親族	保存	対面・メール	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	70,000 枚
7	PEACH-PIT	ローゼンメイデン	本人	保存	メール	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	8,000 枚
8	すがのさち	TRICKYS	本人	保存	メール	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	5,000 枚
9	鳥飼茜	おはようおかえり	編集者・本人	保存	メール	指定なし	横手市増田 まんが美術館 (漆蔵資料館)	7,500 枚
合計								165,500 枚

#### ■連携施設別プール・収蔵実績(令和6年1月31日現在)

施設名	原画数(概算)
石ノ森萬画館	99,000 枚
北九州市漫画ミュージアム	10,000 枚
横手市増田まんが美術館	282,500 枚

プール原画総枚数  
約391,500枚  
(令和6年1月31日現在)

表 3-6 令和5年度 原画プール対応状況の詳細

3.1.3 専門人材の育成

【「マンガ原画保存の手引き」の制作について】

昨年度まで漫画家やプロダクション等、保存者に合った原画の保存方法の研究とマニュアル化を基本方針として、部会員が取材に当たった。その取材内容を基に今年度は、これまでに得られたマンガ所蔵館や企業・プロダクション・作家個人の事例を紹介し、対応の幅の広さやコスト感などを含めた案内を目的とした「マンガ原画保存の手引き」の制作を実施。マンガ原画アーカイブセンターホームページ上で公開を行った。

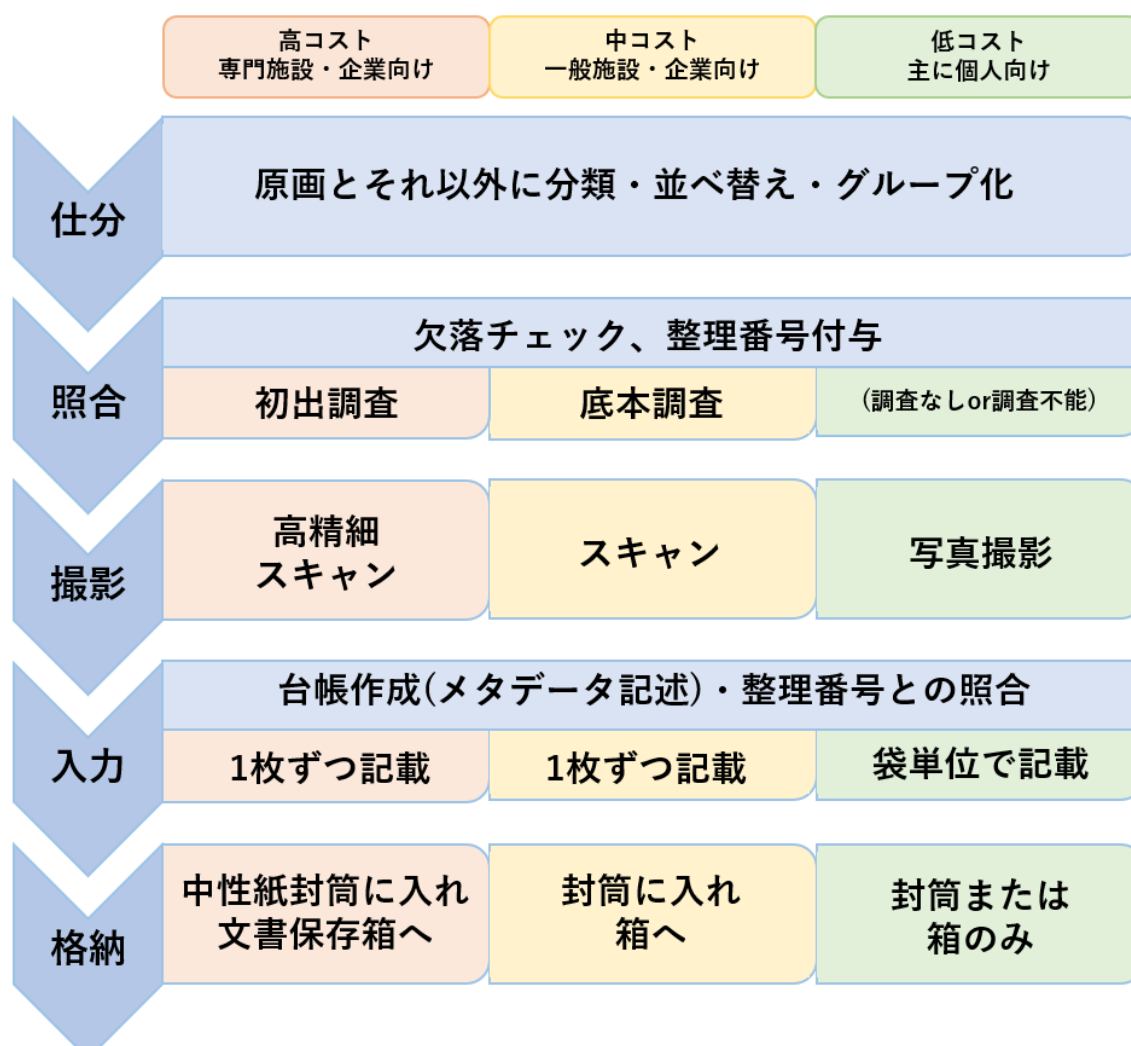


図 3-7 「マンガ原画保存の手引き」記載例  
(コスト別の作業のおおまかな流れと作業タイプ)

### 第3章 実施内容

#### 3.1.4 収益事業及び支援体制構築の調査

【「村上もとか展」でのゲンガノミカタ展テキストを活用した展示構築について】

開催期間：令和5年6月17日（土）～10月3日（火）

内 容：「ゲンガノミカタ」展のテキストはそのままに、事例の原画を、  
対応する村上もとか氏の作品に入れ替え、その解説を加える形で展示。



・「村上もとか展」展示風景



・「村上もとか展」ゲンガノミカタ展テキストを活用した展示

図3-8 「ゲンガノミカタ展」を活用した展示の様子（京都国際マンガミュージアム）



### 第3章 実施内容

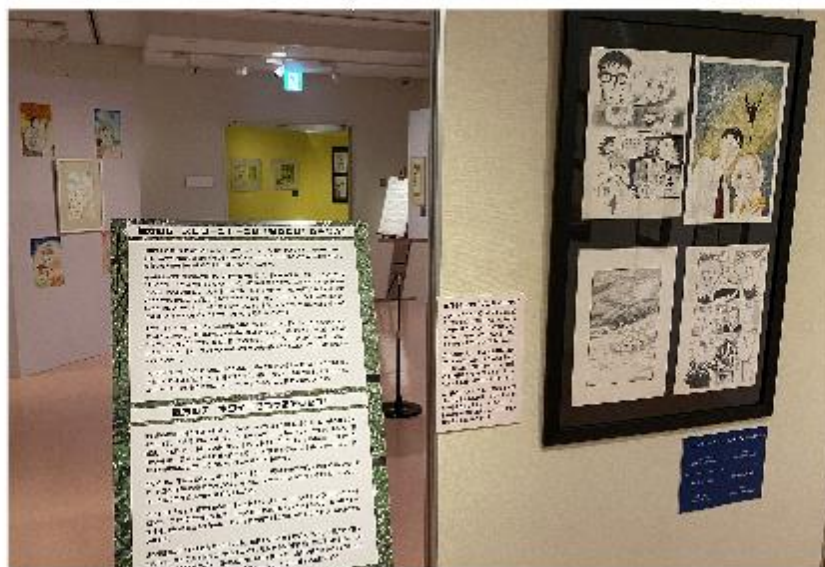
#### 【「文月今日子展」でのゲンガノミカタ展テキストを活用した展示構築について】

開催期間：令和5年9月16日（土）～11月26日（日）

内 容：「ゲンガノミカタ」展のテキストはそのままに、事例の原画を、  
対応する文月今日子氏の作品に入れ替え、その解説を加える形で展示。



・「文月今日子展」展示風景



・「文月今日子展」ゲンガノミカタ展テキストを活用した展示

図3-9 「ゲンガノミカタ展」を活用した展示の様子（北九州市漫画ミュージアム）

### 第3章 実施内容

#### 【日本マンガ学会会場にてMGAC活動紹介ブースの出展】

日 程：令和5年7月1日（土）～7月2日（日）

場 所：相模女子大学（神奈川県）

内 容：令和5年度日本マンガ学会会場にてMGACブースを出展。

MGAC事業・活動内容のほか、ゲンガノミカタ展の活用方法などの紹介を行った。



・日本マンガ学会1日目、ブース出展の様子



・日本マンガ学会2日目、ブース出展の様子

図3-10 MGACブース出展の様子

## 第3章 実施内容

### 3.1.5 原画／刊本事業の合同会議開催

#### 【マンガアーカイブ協議会】

第1回 令和5年4月21日（金）10：00～11：00（オンライン会議）

①今年度マンガ両事業概要について

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

②年間スケジュールについて

- ・合同会議年間スケジュール予定の共有
- ・第2回会議の日程について（秋田開催予定）

〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ  
文化庁：吉井淳、椎名ゆかり、毛利哲哉、牛嶋興平  
事務局：池田敬二、藤本真之介、佐原一江、横江愛希子

第2回 令和5年6月3日（土）10：00～12：00（MGAC 事務所、オンライン会議）

① マンガ両事業活動状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

②刊本アーカイブセンターの設置準備について

- ・刊本アーカイブセンターについて（設置意義、業務内容、組織体制ほか）
- ・設置に関する進捗状況の共有
- ・設置準備に関する課題共有
- ・今後のスケジュールについて

〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、ヤマダトモコ\*  
文化庁：吉井淳\*、椎名ゆかり\*、毛利哲哉\*、牛嶋興平\*  
事務局：森由紀\*、池田敬二\*、藤本真之介、佐原一江\*

\*印付きはオンラインでの参加

### 第3章 実施内容

#### 第3回 令和5年8月8日(火) 14:00~16:00(オンライン会議)

##### ① マンガ両事業活動状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

##### ② 刊本アーカイブセンターの設置準備について

- ・刊本 AC 設置シンポジウム(仮)の開催について  
開催日程、開催場所、内容についての協議
- ・今後のスケジュールについて

##### 〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ  
文化庁：牛嶋興平  
事務局：森由紀、池田敬二、藤本真之介、佐原一江、横江愛希子、沼田智子

#### 第4回 令和5年10月21日(土) 18:30~21:00(東京都/貸し会議室・オンライン会議)

##### ① マンガ両事業活動状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

##### ② 刊本アーカイブセンターの設置準備について

- ・AC 設置シンポジウム開催についての振り返り
- ・AC 設立に向けたスケジュール共有(12月設立)  
今後のスケジュール、組織体制などの詳細の確認

##### 〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ  
文化庁：毛利哲哉、牛嶋興平  
事務局：池田敬二\*、藤本真之介、横江愛希子

\*印付きはオンラインでの参加

### 第3章 実施内容

#### 第5回 令和5年12月2日(土) 15:00~17:30(熊本大学、オンライン会議)

##### ① マンガ両事業活動状況の共有

- ・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」
- ・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

##### ② 「マンガ刊本アーカイブセンター(MPAC)の設置準備について

###### 〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ

オブザーバー：池川佳宏、橋本博、日高利泰、トジラカーン・マシマ

文化庁：椎名ゆかり、毛利哲哉、牛嶋興平

事務局：池田敬二\*、藤本真之介、横江愛希子

\*印付きはオンライン会議での参加

#### 第6回 令和6年2月1日(木) 17:15~18:00(オンライン会議)

##### ①今年度取組状況報告

- ・協議会開催(全6回)、刊本ACの設立ほか

##### ②来年度以降の会議体の開催について

- ・原画刊本との合同会議の開催について
- ・開催スケジュール

###### 〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、鈴木寛之、表智之、ヤマダトモコ

文化庁：毛利哲哉、牛嶋興平

事務局：森由紀、池田敬二、岡部玲奈、藤本真之介、佐原一江、横江愛希子

## 第3章 実施内容

### 3.2 実施会議内容

#### 3.2.1 運営協議会

第1回 令和5年4月21日（金）11：00～12：00（オンライン会議）

- ① 令和5年度マンガ原画アーカイブセンターの事業内容について
  - ・事業計画、年間スケジュールの確認
- ② MGAC 運営に関する情報共有及び協議
  - ・相談件数及び内容の確認
  - ・プール事業について

〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、表智之、ヤマダトモコ、池川佳宏

オブザーバー：鈴木寛之

文化庁：吉井淳、椎名ゆかり、毛利哲哉、牛嶋興平

事務局：池田敬二、藤本真之介、佐原一江

第2回 令和6年2月1日（木）16：30～18：00（オンライン会議）

- ①各部会の今年度取組状況報告
  - ・収益部会、マニュアル部会、ネットワーク部会
- ②R5年度原画プール実施状況（1/31現在）
- ③今後のマンガ原画アーカイブセンター事業の方向性について

〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、表智之、ヤマダトモコ、池川佳宏

オブザーバー：鈴木寛之

文化庁：毛利哲哉、牛嶋興平

事務局：森由紀、池田敬二、岡部玲奈、藤本真之介、佐原一江、横江愛希子

## 第3章 実施内容

### 3.2.2 各部門実施会議内容

#### 【マンガ原画アーカイブネットワーク会議】

第1回 令和5年8月22日（火）13：00～15：00（オンライン会議）

①今年度の取組について

- ・事業実施計画の確認
- ・マンガ原画アーカイブセンターの実施状況について

②各参加団体からの近況報告

- ・横手市増田まんが美術館、石ノ森萬画館、明治大学米沢嘉博記念図書館  
京都国際マンガミュージアム、青山剛昌ふるさと館、北九州市漫画ミュージアム  
湯前まんが美術館

③第2回マンガ原画アーカイブネットワーク会議の開催について

〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、表智之、黒木博行、木村仁、倉持佳代子、  
ヤマダトモコ、隅淳子

文化庁：椎名ゆかり、毛利哲哉、牛嶋興平

事務局：池田敬二、藤本真之介、佐原一江、沼田智子、青木蘭

第2回 令和5年10月20日（金）14：00～16：30 東京都／貸し会議場、オンライン会議）

① MGAC の活動状況の共有

10/16 中間報告会

②ネットワーク館による情報共有

各参加団体からの近況報告（夏季の運営を終えて、今後のスケジュール、イベント等）

③参画団体、参画施設等の拡充

拡充のための協議及び情報共有

④「原画プール」新規連携館、施設の開拓

⑤各参加団体との意見交換

⑥来年度マンガ原画アーカイブネットワーク会議の開催について

### 第3章 実施内容

〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、表智之、ヤマダトモコ、黒木博行、木村仁  
倉持佳代子\*、川本伸明、

文化庁：牛嶋興平

事務局：池田敬二\*、岡部玲奈\*、富田尚美\*、藤本真之介

\*印付きはオンラインでの参加

#### 【マンガ原画アーカイブマニュアル検討会議】

第1回 令和5年6月3日（土）14：00～15：30（MGAC 事務所、オンライン会議）

①今年度の取組について

②昨年度実施内容の振り返り

③今年度実施計画の確認

- ・保存者別マニュアル（仮）の制作、公開について
- ・掲載内容、媒体、追加取材の必要性などの確認
- ・作業スケジュールについて

〈参加者〉

会議メンバー：池川佳浩、ヤマダトモコ\*、大石卓

文化庁：牛嶋興平\*

事務局：池田敬二\*、藤本真之介、佐原一江\*

\*印付きはオンラインでの参加

第2回 令和6年2月1日（木）15：45～16：30（オンライン会議）

①マンガ原画アーカイブマニュアルの制作

- ・制作状況の共有、説明
- ・公開方法について

②来年度以降のマニュアル部会の活動についての協議

- ・マニュアルの活用方法ほか
- ・来年度以降の取組について

〈参加者〉

会議メンバー：イトウユウ、大石卓、表智之、ヤマダトモコ、池川佳宏

文化庁：毛利哲哉、牛嶋興平

事務局：池田敬二、岡部玲奈、藤本真之介、佐原一江



### 第3章 実施内容

#### 4) 収益・支援体制構築会議

第1回 令和5年6月4日(日) 10:00~12:00 (MGAC事務所、オンライン会議)

- ①今年度の取組について
  - ・昨年度実施内容の振り返り
  - ・今年度実施計画の確認
- ②「ゲンガノミカタ」展小冊子について
  - ・進捗状況共有
  - ・冊子について内容解説
  - ・冊子の活用等について
- ③「ゲンガノミカタ」展活用についての情報共有
- ④「ゲンガノミカタ」展2部の展示について

〈参加者〉

会議メンバー：吉村和真、イトウユウ、大石卓、表智之  
文化庁：椎名ゆかり\*、牛嶋興平\*  
事務局：池田敬二\*、藤本真之介、佐原一江\*  
\*印付きはオンラインでの参加

第2回 令和6年2月1日(木) 15:00~15:45 (オンライン会議)

- ①「ゲンガノミカタ」テキストを活用した展示構築
  - ・谷口ジロー展 (京都国際マンガミュージアム)
  - ・文月今日子展 (北九州市漫画ミュージアム)
- ②「ゲンガノミカタ」冊子の活用状況の報告
  - ・日本マンガ学会でのブース出展
  - ・各連携館での販売
- ③来年度以降の収益事業についての情報共有並びに方針等の協議
  - ・プール原画を使った企画展の開催
  - ・「ゲンガノミカタ」展の追加展示構築
  - ・【増補改訂版】「ゲンガノミカタ」冊子の制作状況の共有

### 第3章 実施内容

〈参加者〉

会議メンバー：イトウユウ、大石卓、表智之、ヤマダトモコ、池川佳宏

文化庁：毛利哲哉、牛嶋興平

事務局：池田敬二、岡部玲奈、藤本真之介、佐原一江

本報告書は、文化庁の委託業務として、大日本印刷株式会社が実施した令和 5 年度「メディア芸術連携基盤等整備推進事業 分野別強化事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。  
転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。